

たじひのたより

特集 松原市の新しい指定文化財

No.22

松原市指定有形文化財

美術工芸品 彫刻 彫第5号

来迎寺木造阿弥陀如来立像

指定年月日：令和4年（2022）6月24日

員 数：1基

所 有 者：宗教法人 来迎寺

所 在 地：松原市丹南3丁目1-22

時 代：平安時代中期（10世紀）

形狀・寸法等：木造

像高102.4 cm、发際高94.2 cm



松原市指定有形文化財

美術工芸品 考古資料 考第1号

立部遺跡火葬墓出土須恵器 藏骨器(壺・蓋)

附 火葬骨ほか火葬墓内遺物



指定年月日：令和4年（2022）9月29日

員 数：一括

所 有 者：松原市（松原市教育委員会）

所 在 地：松原市阿保1丁目1-1

時 代：平安時代初頭（9世紀前半）

形狀・寸法等：須恵器壺 口径9.5 cm、器高23.6 cm、

底径12.4 cm、最大径23.4 cm

須恵器蓋 口径12.4 cm、器高3.0 cm

丹比の地で平安時代から守り継がれてきた 阿弥陀如来

來迎寺木造阿彌陀如來立像

丹南の來迎寺（丹南本山米

迎寺）にある西福院（令和4年

10月落慶）の本尊です。もと

は魔寺となった西福寺（堺市美

原区大保）の本尊でした。今か

ら1,100年ほど前の平安時代中

期（10世紀）の作で、頭と体幹

を一材から彫出す一木造の技法

で制作されています。現在は来

迎印を結ぶ阿彌陀如來の姿です

が、頭の形や顔つきなどの特徴

から当初は薬師如來であった可

能性があります。

当時、松原市丹南と堺市美原

区をふくむ一帯は河内国丹比郡

と呼ばれ、仏像はこの地にあつ

たいすれかの古代寺院で祀られ

ていた可能性があります。そし

て、いつの頃か両手先の部材が

付け替えられ阿彌陀如來として

人々の祈りを集めるようにな

り、今日に至っています。



▲仏像の左側頭部

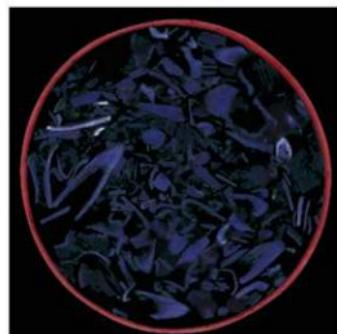


ひそかに 被葬者は古墳時代から

立部の地を治めた在地豪族

立部遺跡火葬墓出土須恵器藏骨器(壺・蓋) 附 火葬骨ほか火葬墓内遺物

松原市立部3丁目地内の立部遺跡・立部古墳群跡で見つかった在地豪族の一族墓地内の火葬墓（9世紀前半・平安時代初頭）から出土したもので、藏骨器内には納骨されたときの姿で火葬骨が残されていました。この資料は以前に本誌19号で、被葬者が遠方で死亡・火葬された後、本貫地の立部に帰葬された可能性があることをお伝えしました。しかし、藏骨器内の焼土と立部遺跡の土をさらに分析した結果、墓地のあたりで火葬された可能性が高く、藏骨器は遠方の品を使用したと考えられます。ただ、古代の文献史料に遠方で死亡した役人が遺体で本貫地に帰って火葬された事例もあるため、帰葬の有無を明らかにするには今後も調査と研究が必要です。この資料は、古代の丹比地域における葬送儀礼や在地豪族の墓制を考える上で貴重なものです。



1. 最初に火葬墓を見つけたときの様子です。藏骨器の蓋の部分が見えています

2. 火葬墓の穴を埋めていた一番上の土を取りのぞくと炭が見えてきました

3. 観察用の鞋を十字に残し穴の底まで掘り下げました。底まで炭がぎっしり埋まっています

4. 炭を全て取り除くと隣から立部器の破片が出土しました

5. 蓋をとると、壺と蓋を固定した粘土がありました

6. 藏骨器を取り上げると、火葬墓の底に小さな痛みを掘つて壺を据えたことがわかりました



◆物を透過するX線の作用を使い撮影した藏骨器の中の様子(X線CT画像)。上の写真が横方向に輪切りにしたもので、下の写真が縦方向に輪切りにしたもので、藏骨器を赤色、人の骨を紫色(輪郭は緑色)、焼けた土と炭を灰色に塗分けています

2

3

4

5

6



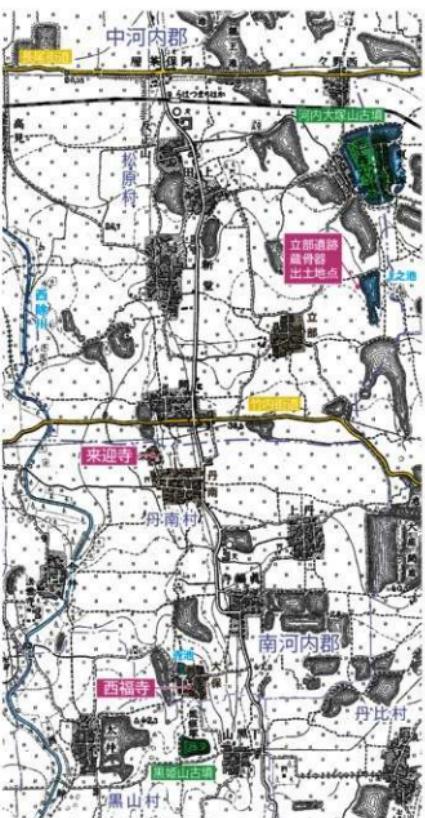
●古代の丹比地域について

現在、大阪府松原市から堺市美原区の一带は南河内という地域名で呼ばれていますが、平安時代には河内国丹比郡と呼ばれていました。古代の国家は律令を定めて国土を60ほどのが「國」に分け、それをいくつかの「郡」に分け、さらに細かい「里(のちに郷)」に分けて支配しました。現在の大坂府域は畿内の一都で、摂津・河内・和泉の3つの国が置かれました。10世紀に成立した『和名類聚抄』には、河内国が14郡から成り丹比郡に11郷が存在したと記されています。右の地図にある大字丹上と黒山は郷名がそのまま残ったもので、大字丹南は11世紀後半に丹比郡が分かれた3郡(丹北・丹南・八上)のうちの一つの郡名が残ったものです。

平安時代以前の丹比地域ですが、5世紀に首長墓の黒姫山古墳をはじめ多くの古墳が築かれるため、この時期に土地開発が本格化したと考えられます。指定文化財の藏骨器とともにう火葬墓がある墓地でもこの時期に古墳が造られ始めます。その後、7世紀の飛鳥時代には古代寺院が多く建立され、指定文化財の阿弥陀如来立像を祀っていた大保地区でもため池の寺池あたりに古代寺院があったと伝えられており、瓦も採取されています。



撮影は平成11年(1999)。空から見た竹内街道から南側の様子



今から約100年前(大正11年(1922)ころ)の河内松原駅から南の様子。当時、丹南地区と大保地区は南河内郡丹南村の一部でした。

※国土地理院が保有する旧版地図の2万5千分1地形図「古市」(正大11年に大日本帝国陸地測量部が測量)を加工して作成

文化財データの公開について

今回紹介した指定文化財は、市のウェブサイトで詳しい説明(指定調書)を公開中です。また、「まつぱらいろはかるた」の題材になった文化財の情報についても、自由に二次利用可能なクリエイティブ・コモンズ・ライセンスで公開中です。さらには、日本中の文化財と一緒に楽しめるよう「文化遺産オンライン」や「ジャパンサーチ」といったポータルサイトと連携しています。右のQRコードからご覧ください。



東云寺木造阿弥陀如来立像の詳しい説明



まつばら文化財
デジタルアーカイブ



文化遺産オンライン
(文化庁)



立部遺跡(河内丹北郷)
木造骨器の詳しい説明



全田遺跡(河内丹南郷)
木造骨器の詳しい説明



ジャパンサーチ
(国立国会図書館)